

第五期 懇談会・活動報告会・平成三十年度通常総会開催

REF第五期懇談会・活動報告会・平成三十年度通常総会が七月七日(土)に織協ビルで開催された。当日は豪雨の影響で講演者の三村泰広氏が福井市に来られなくなり、講演会が中止され、代わりに会員同士が意見交換する懇談会が開かれた。行政担当者の一部が豪雨時の対応で欠席したにも関わらず、二十四名の参加者があった。

加藤哲男理事長からの挨拶に続いて、懇談会では参加者それぞれが入会のきっかけや思い出話を披露した。続く活動報告会では西谷光史氏の司会のもと、各分科会から研究発表および講評が行われ、川上洋司氏による総評が行われた。

総会では、まず議長長の選出(橋本拓巳氏)および、議事録署名人の選出が行われ、議事に移った。第五期(通算第三十八期)活動報告および決算報告、役員改選、第六期活動計画および予算案などが諮られ、原案通り議決された。最後に新入会員等の異動報告があった。



加藤理事長による挨拶



懇談会の様子

その後会場を移し、交流会が開かれた。和やかな雰囲気の中、交流会は進み、会員相互の交流を深めた後、閉会した。

第六期役員(敬称略)

(任期) 平成三十年八月一日〜平成三十二年七月三十一日

- 理事**
理事長・研究分科会 加藤 哲男 名古屋産業大学名誉教授
副理事長・現地調査 宮本 好昭 デルタコンサルタント
財務・談話会・講演会 酒井 俊雄 福井市都市戦略部
総務・広報 川本 義海 福井大学
監事 竹内 成和

- 幹事**
現地調査 木村 晃規 県港湾空港課
談話会・講演会 脇本 幹雄 佐幸測量設計
広報 南 克昌 県河内川ダム建設事務所
西谷 光史 デルタコンサルタント
山内 崇史 県敦賀土木事務所
田辺 毅 県福井土木事務所
清水 健 県河川課

研究分科会部門幹事

- (交通) 吉村 朋矩 福井工業大学
(地象) 窪田 吉倫 県新幹線建設推進課
(水) 齊藤 重人 県土木部
橋本 拓巳 東京コンサルタンツ
嶋田 喜昭 大同大学
(道路交通安全) 玉村 美樹 福井大学大学院
森 智生 福井大学大学院



総会議長の橋本拓巳氏



交流会で乾杯の音頭を取る長村氏

平成30年度 活動予算書(案)

平成30年6月1日から平成31年5月31日まで

科目	金額	特記事項
1 経常収益		
1 受取金		
正会員受取金	852,000	前年度繰越金: 71名
賛助会費受取金	100,000	前年度繰越金: 2名
2 受取寄付金	0	
受取助成金	0	
受取奨励金	0	
3 事業収益	150,000	
経常収益計	1,112,000	
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費	0	
人件費計	0	
(2) その他経費	90,000	
会議使用料	500,000	
経費交通費	370,000	
会議費	20,000	
経常費用計	1,370,000	
2 管理費		
(1) 人件費	0	
人件費計	0	
(2) その他経費	36,000	
経費交通費	14,000	
経費印刷費	22,000	
経常費用計	86,000	
経常外収益		
1 固定資産売却益	0	
経常外収益計	0	
IV 経常外費用		
1 固定資産取得費	0	
経常外費用計	0	
経常外収益	0	
経常外費用	-346,700	
繰越金	2,415,274	
繰越金計	2,415,274	

平成29年度 活動決算書(案)

平成29年6月1日から平成30年5月31日まで

科目	金額	特記事項
1 経常収益		
1 受取金		
正会員受取金	917,000	71名
賛助会費受取金	41,000	2名
2 受取寄付金	0	
受取助成金	0	
受取奨励金	0	
3 事業収益	110,000	
経常収益計	1,112,000	
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費	0	
人件費計	0	
(2) その他経費	34,528	
会議使用料	175,541	
経費交通費	368,393	
会議費	20,000	
経常費用計	988,120	
2 管理費		
(1) 人件費	0	
人件費計	0	
(2) その他経費	2,512	
経費交通費	1,700	
経費印刷費	13,800	
経費公費	1,479	
管理費計	19,291	
経常費用計	1,007,411	
経常外収益		
1 固定資産売却益	0	
経常外収益計	0	
IV 経常外費用		
1 固定資産取得費	0	
経常外費用計	0	
経常外収益	106,611	
経常外費用	-2,462,444	
繰越金	2,700,000	
繰越金計	2,700,000	

第六期(通算第三十九期) 予算(平成三十年 六月一日〜平成三十一年五月三十一日)

第五期(通算第三十八期) 決算(平成二十九年 六月一日〜平成三十年五月三十一日)

【分科会報告会】

総会に先立ち、第5期の分科会活動報告が開催された。以下に簡単な研究の要旨と議論された内容について掲載する。

【交通分科会】

発表者：山田 将大
 質疑者：竹内 成和
 「歩行者・自転車を取り巻く環境に関する研究（その2）」

国土のグランドデザイン2050において、交通需要の偏在や公共交通や自転車の利用を含め交通手段の多様性、安全性の確保による良好な都市環境の創出などが課題として挙げられている。第五期の交通分科会では、歩行空間や自転車の利用環境などについて探るとともに、歩行者や自転車が関連する事故の減少などについて調査し、誰もが暮らしやすいと思えるまちの実現を目指すための活動をしてきた。調査によると、自転車事故の発生件数は年々減少傾向にある。しかし、自転車の事故は、依然として交通事故全体の約2割を占めている。また自転車事故の特徴として、出会いがしらの事故が全体の半数以上、自転車側の6割強が法令違反といったことなどがあげられる。また違反行為を繰り返したもののために自転車運転講習制度があり、これは事故当時の体験談などを聞き、自転車が車両であるということを認識する機会になっている。この他にも自転車に関するルールで特に重要なものをまとめた「安全利用五則」などの取り組みもある。

講評では、自転車乗車に関する心理的負担に関する研究、自転車利用率のデータ活用やシェアサイクルに関する話題など多数を提示され、関心の高さが伺えた。川上氏による総評では、氏の学生時代に問題となった駐輪問題を中心に、当時とは自転車の種類と使われ方が変化（スポーツ自転車の普及）したことを話された。それを踏まえ、本研究が対象とするターゲット層は日常的な自転車の利用者である高校生ではないかと提言された。

【地象分科会】

発表者：小林 孝彰
 質疑者：酒井 俊雄
 「福井の地名から学ぶ防災・減災について
 ～大野の歴史を紐解く～」

第5期は、福井市の東に位置し、九頭竜川が山間部から平野部へと流れ込む東藤島周辺の現地調査を行い、地形的特徴である扇状地の特徴をまとめ、郷土史から村の成り立ち、地名の由来を探ると共に、災害を暗示する地名についての考察を行った。また、新たな視点として、この地域が地元である会員の苗字に着目し、苗字と地形の関係、地形判読から見る村の成り立ち、地名について考察を行うなど、視点を変えて取り組んだ。現地調査は大野市街地を約半日かけて歩き、大野市の歴史的背景と地下水等の扇状地特有の地形的特徴を見て回った。現地調査からは、歴史的背景から見られる格子状の街並みや、その街並みを形成するに至った、大野市特有の盆地、扇状地といった地形的特徴、更には過去の災害を受けて、防災面を意識して生まれ変わった市街地を見ることができたことは非常に有意義であった。また、今回も、地名とその由来から、防災面から見た地域の特徴をとらえることが確認できた。



山田氏、竹内氏
 を行う発表、
 を行う質疑



小林氏、酒井氏
 を行う発表、
 を行う質疑

国土交通省では、日本の優れた土木技術に裏付けられたインフラ施設を観光資源として活用する、インフラツーリズムを推進している。福井県においては4年後の北陸新幹線開業を見据えて、観光資源の開発が急務とされている。そこで、今回は丹南地域を中心として、インフラの魅力を掘り下げ、一日程度で周遊可能なインフラツアーを提案する。調査個所は表の五箇所である。

さらに、ツアーの中にはコウノトリや、そば打ちなど地域の特色ある見どころも加えることで、福井ならではのツアーとしている。観光資源としての価値を磨き上げるためにも、簡易な看板やパンフレットなどを多くのインフラ施設に整備していくことが求められる。

講評では、波力発電所と厨西護岸は同時期の施工だが技術や仕組みなど全く異なるものである興味深さ、また「世界初」「日本一」など唯一無二の持つ重要さを感じたという感想であった。

川上氏による総評では、インフラ施設は一つ一つの場所の特性に合わせたオーダーメイドの一品であることから、インフラ図鑑のようなものを作成し、観光化の前に現地住民に知ってもらうことも重要だと話された。

【水文科会】

発表者：萩原 貞宏
 質疑者：清水 健
 「丹南地域のインフラツアー
 ～観光客誘致の呼び水に～」

No	名称	場所	備考
①	波力発電所	丹生郡越前町小樟	世界初のプローホール発電
②	厨西護岸	丹生郡越前町厨	高さ日本一の護岸
③	糠川河川トンネル	南条郡南越前町糠	県内唯一の河川トンネル
④	アカタン砂防	南条郡南越前町古木	土堰堤2基、石積堰堤7基
⑤	旧北陸線トンネル群	南条郡南越前町～敦賀市	トンネル11本

【県境道路分科会】

発表者：橋本 拓己
 質疑者：三輪 裕一

「県境地域の道路整備事例調査について」

前期に現地調査を実施した国道417号冠山峠道路の事業実施個所とほぼ同じ時期に国による調査が開始され、平成二十三年三月に開通した国道421号石樽峠道路の整備効果などについて調査を行った。

石樽トンネル整備・利用状況などについて現地調査、道の駅「奥永源寺溪流の里」及び東近江市役所支所のご協力により実施した。トンネル開通後6〜10倍以上と大幅に増加した。また、永源寺地区住民の生活等への効果、影響等は大きく、三重県側への救急搬送事例も出てきている。地域間交流の面では、いなべ市と東近江市で交流・連携が行われている。トンネル開通後、名古屋への時間距離が非常に近くなった。一方課題も出てきており、石樽トンネル開通までは交通量が少なく、大型車の通行も少なく、比較的にんびりと道路を利用できたが、交通事故等への不安が大きくなってきている。次回は、今年の福井国体開催に向けて整備中の、国道416号大日峠道路について現地調査を実施する予定である。

講評では、県境における分断について、テレビ放送の路線バスの旅では、県境を必ず歩くシーンを例に挙げられた。川上氏による総評では、県境に関しては、並行在来線の県間での会社が分かれることも、福井県にとってホットな県境に関する話題であると情報提供された。



発表を行う萩原氏、
 質疑を行う清水氏



発表を行う橋本氏、
 質疑を行う三輪氏

【交通安全分科会】

発表者：加藤 哲男
 質疑者：梅田 祐一

「自動運転時代における課題の整理」

本研究は自動運転の議論が活発に進む中、取り組みに関する整理をすることにより、将来の都市交通における未来像について俯瞰するものである。現状の自動運転における定義とその問題を整理した。特にSAEレベル3以降の高次の自動運転システムについては、実用化に至るまでに様々な課題があり、それらを5つに整理し提示した。レベル2までは実用化が進んでおり、この段階までの自動運転技術の普及率（大型車と乗用車）と今後実用化されていく上で見込まれる効果の予測を、自動運転技術を普及させてきたスバルに着眼した分析を元に数値として示した。安全面に関してはおおよそ期待通りの結果を出している。

また経済産業省(2020年までに無人自動走行による移動サービス、高速道路での自動走行実現)、総務省(高度道路交通システムの実現)、国土交通省(技術基準や賠償ルールの検討、車両技術や道路と車両の連携技術開発の促進)、警察庁(世界一安全な道路交通の実現)を中心に省庁別の取り組みについて整理する。今後は、各状況把握を行うとともに、道路交通安全全面での課題を議論していく予定である。

講評では、ガイドラインとしては、安全を確保する人間が必要ということを指摘された。川上氏による総評では、人間が自動運転に対応できるように、技術革新の制御も必要だと話された。



発表を行う加藤氏、
 質疑を行う梅田氏



総評を行う川上氏

☆入退会のおしらせ☆ (敬称略)

《入会》

正会員 西谷 光史
 (賛助会員から転格)

賛助会員 該当なし

《退会》

賛助会員 中村 真里(学生会員)

許 鋒 (学生会員)

平成三十年七月七日時点

	H30.7	備考
正会員	72	賛助会員から転格+1
賛助会員	35	退会-2
計	107	

【会費の納入について】

会費の納入をお願いします。

■年会費

正会員 …… 12,000円

賛助会員 …… 3,000円

■会費納入先

《振込みの場合》

ゆうちょ銀行

振替口座 730・3・20396

福井地域環境研究会

※機関紙巻末の振込用紙をご利用ください。

《直接支払う場合》

総会、中間報告会、談話会等開催時、または、左記、財務幹事まで直接お支払いください。

【財務幹事】

〒910-8580

福井県福井市大手3丁目17-1

福井県土木部河川課

清水 健

TEL 0776-20-0481(内線3393)